

表示灯監視による「機械設備の稼働管理・見える化」支援システム

既設の表示灯を表示状態監視ユニットに交換！



表示灯の点灯状態・変化をLoRa無線方式で通信。Wi-Fiと違い、通信トラブルは限りなくゼロ

LoRa Alliance

LoRa無線通信方式

- LPWA(LoRa)
- 920MHz帯省電力通信
- 通信距離 約3km(密集地区) 約11km(田園地区)まで可能

③IoT ボタン On

①異常信号送信

④CALL



④CALL



④CALL



FACTORY

IFTTT

MORITO



②即メール送信

稼働データ送信

データの収集・可視・監視クラウドシステム
設備稼働状況リアルタイムモニタ

障壁を透過し、遠距離通信が可能な、LoRa無線ユニットを最大32台まで制御可能

データ収集通信制御サーバ
WD100-S32



表示灯異常発生実績の見える化



OFFICE

2023年10月25日 改版

STEP1 トラブルに気づくことのできる環境 & 稼働状態が振り返られる環境 の整備

ご提案①

表示灯監視による「機械設備停止」時のアラート

各生産設備の表示灯を専用の監視ユニットに交換します。

事務所にデータ収集通信制御サーバーを設置し各OKUMA機器からの点灯情報を受信します。

【ストーリー】

- ①設備異常時、表示灯からデータ収集通信制御サーバーに信号を送信。
- ②データ収集通信制御サーバーは直ちに、IFTTTサーバーにメールを発報。
- ③IFTTTサーバーが、IoTボタンに指示。ナースコールコールボタンON。
- ④各担当の受信機(首にぶらさげるかベルトに挟む)にバイブと音で通知。
- ⑤各担当は、ルールにのっとって対処。

市販されている

CallToU ナースコールを活用！



ご提案②

表示灯監視による「機械設備の稼働管理・見える化」

データ収集通信制御サーバーに一時保存されるデータを、MORITO-FDに自動転送します。

クラウド上のデータ収集・可視・監視アプリ MORITO-FDにて、稼働管理が可能となります。

- ・設備稼働状況リアルタイムモニタ
- ・設備稼働状況ログ出力
- ・・・稼働状況をリアルタイムかつその日の推移を閲覧
- ・・・設備ごとに、各信号発生時刻をファイル出力